

## ○株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領 株主確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所(スタンダード市場)
公 告 の 方 法	電子公告により行う [公告掲載 URL] <a href="https://www.hayashikane.co.jp/">https://www.hayashikane.co.jp/</a> (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

### (ご注意)

- 1.株主様の住所変更、買取請求・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。  
なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

 Hayashikane

〒750-8608 山口県下関市大和町二丁目4番8号  
TEL(083)266-0210 FAX(083)266-1266

## ホームページのご案内



林兼産業株式会社 Topページ  
<https://www.hayashikane.co.jp/>



詳細はこちらの  
QRコードから  
お願いします



林兼産業株式会社 IR情報ページ  
<https://www.hayashikane.co.jp/ir/>



この報告書は、FSC®認証紙と、環境に優しい植物油インキを使用して印刷しています。

# With you

第84期

## 株主通信

2022年4月1日～2023年3月31日



## Index

業績サマリー	01
社長から皆さまへ	02
セグメント概況	03
トピックス	04
インフォメーション	05
財務諸表(要約)	07
会社概要	09

 Hayashikane

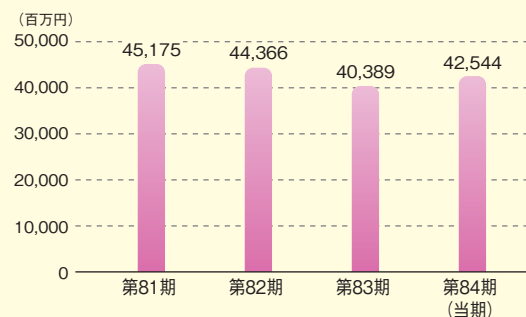
証券コード 2286

# 業績サマリー

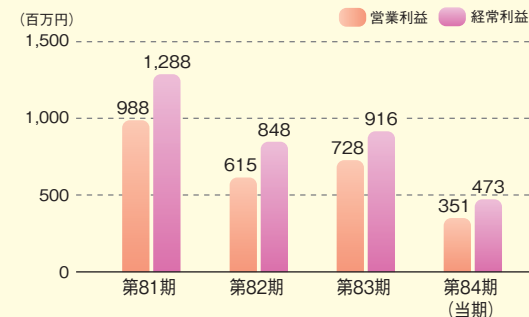
## 財務ハイライト

	第83期	第84期	前期比増減
連結売上高	40,389百万円	42,544百万円	5.3%
連結営業利益	728百万円	351百万円	△51.7%
連結経常利益	916百万円	473百万円	△48.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	707百万円	333百万円	△52.9%

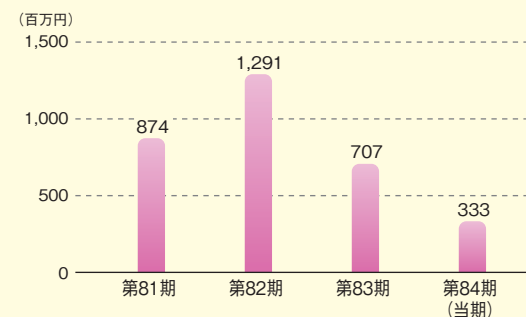
### ○連結売上高



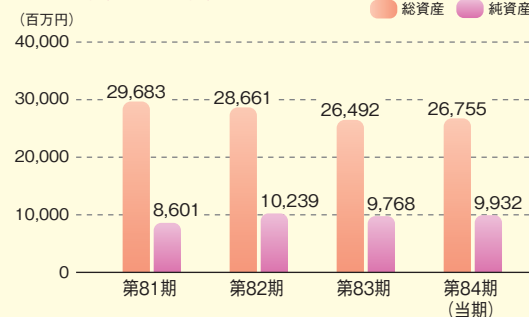
### ○連結営業利益 / 経常利益



### ○親会社株主に帰属する当期純利益



### ○連結総資産 / 純資産



# 社長から皆さまへ

株主の皆さまに第84期株主通信をお手もとにお届け申しあげるにあたりまして、日ごろのご愛顧とご支援に厚く御礼申し上げます。

## 当期の経営成績

当連結会計年度の売上高は、外食需要の回復に伴う肉類および食肉加工品の販売数量増加、ならびに原材料価格やエネルギーコストの高騰に対応するために行った食品・飼料の価格改定により、425億44百万円(前期比5.3%増加)となりました。しかしながら、損益面におきましては、価格改定が原価の高騰分に追いつかず、また、前連結会計年度に行ったグループ再編の影響もあり、営業利益は3億51百万円(前期比51.7%減少)、経常利益は4億73百万円(前期比48.4%減少)、親会社株主に帰属する当期純利益は3億33百万円(前期比52.9%減少)となりました。

## 経営計画

当社グループは、昨年4月から「中期経営計画<挑戦>PhaseII<<challenge2024>>」を策定し実行中です。

当社の経営環境においては、外食需要の回復が顕著に見られるものの、一方で原材料事情は今後も不安定な状況が続くものと思われます。原料相場の高値推移に加え、ウクライナ情勢による供給危機や円安により、さらなる原材料価格・エネルギーコストの高騰が懸念されます。魚肉

ねり製品の主原料であるすり身、食肉加工品の主原料である豚肉、配合飼料の主原料である魚粉・穀物などは、相場変動により当社収益を圧迫する要因となります。このような状況のなか、「中期経営計画<挑戦>PhaseII<<challenge2024>>」の初年度における連結業績につきましては、外食需要の回復に伴う食肉加工品の販売数量増加、および原材料価格・エネルギーコストの高騰に対応した食品・飼料の価格改定などにより、売上高・利益ともに計画を上回るものとなりました。

経営資源の更なる選択と集中による構造改革を推し進めて収益力をより強固なものにするともに、環境負荷の軽減(温室効果ガス排出量削減や地球温暖化対策)に努めるなど、事業活動を通じてSDGsの達成に貢献することを目指してまいります。今後とも一層のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2023年6月

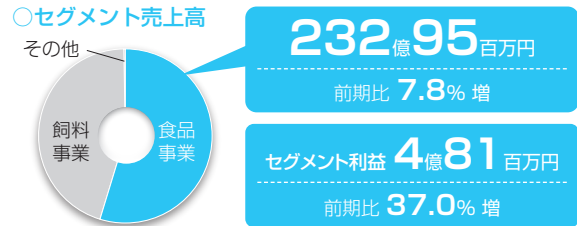
取締役社長  
中野 哲二



※「中期経営計画<挑戦>PhaseII<<challenge2024>>」の詳細につきましては、当社ホームページ「中期経営計画」をご参照ください。  
[<https://www.hayashikane.co.jp/ir/managementplan/>]

# セグメント概況

## 【食品事業】



機能性食品は、機能性素材エラスチンの海外向け販売数量が増加したことにより、増収となりました。

魚肉ねり製品は、海外向けの販売数量が落ち込んだことにより、減収となりました。

ハム・ソーセージ等食肉加工品は、価格改定や外食需要の回復に伴う販売数量増加により、増収となりました。

肉類は、飼料価格の高騰などに対応するため自社ブランド「霧島黒豚」および国産豚の価格改定を行ったことにより、増収となりました。

これらにより、売上高は232億95百万円(前期比7.8%増加)となりました。損益面におきましては、価格改定が原材料価格およびエネルギーコストの高騰分に追い付いていないものの、生産効率の改善や機能性食品の販売数量増加などにより、セグメント利益(営業利益)は4億81百万円(前期比37.0%増加)となりました。



## 【飼料事業】



養魚用飼料ならびに畜産用飼料は、原材料価格高騰に対応した価格改定により増収となりました。

水産物は、取り扱い量が減少したことにより、減収となりました。

これらにより、売上高は192億6百万円(前期比13.4%増加)となりました。損益面におきましては、価格改定が原材料価格およびエネルギーコストの高騰分に追い付かず、セグメント利益(営業利益)は8億70百万円(前期比24.3%減少)となりました。



マグロ用配合飼料「ツナフード」

# トピックス

## 林兼産業(株)飼料事業部ではアクアメディカル・ラボを新設しました

アクアメディカル・ラボは旧家畜魚類診療所と旧水産研究センターを統合して、水産獣医師を中心とする魚病の総合研究機関として誕生しました。魚病の診断・早期対策に加え、これまで対策がなかった魚病についても治療方法の確立を目指し、養殖業界の発展に貢献します。

### ① 当社水産獣医師の活躍が農林水産省に様々な形でとりあげられています

#### 水産獣医師の仕事



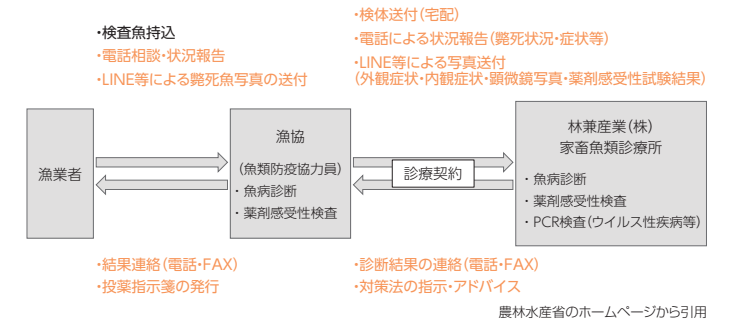
農林水産省のホームページから引用

日本では水産獣医師を有する魚病総合研究開発機関はほぼなく、農林水産省が発行する機関紙「aff」にも特集記事が組まれております。

URL [https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/2109/spe1\\_03.html](https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/2109/spe1_03.html)



#### ■ 診療体制



水産獣医師の遠隔診療活用事例のモデルケースとして取り上げられました。取り上げられた10件中6件は当社が関与しております。

URL [https://www.maff.go.jp/j/syouan/suisan/suisan\\_yobo/attach/pdf/index-9.pdf](https://www.maff.go.jp/j/syouan/suisan/suisan_yobo/attach/pdf/index-9.pdf)



### ② これまで対策のなかった複数の魚病の治療方法の確立に成功しております

過去5年間に、これまで対策がなかった魚病の内、ブリのベコ病を出荷まで完全に抑える薬の発見及び投薬方法の確立(特許取得済み 水産薬として承認)、マグロの不明病の機序解明による歩留まりの大幅な改善、フグのヤセ病対策(特許申請中)を確立しました。



みたと新聞発行



## 霧島黒豚®は農場から食卓まで 管理された安全・安心のブランド



確かなブランド、  
それが霧島黒豚®

### ～農場から食卓へ～

霧島山麓の大自然の中、自社グループ農場キリシマドリームファームで愛情豊かに肥育されるイギリス系パークシャー種の「霧島黒豚®」。きめ細かい肉質と良質の脂肪が特徴で、旨みと甘みのある美味しい黒豚に仕上げました。



こだわりローストビーフ



霧島黒豚煮込みハンバーグ

### CSR活動

### 子ども食堂へ当社の食肉加工品寄贈

山口県下関市のNPO法人 皆繋(みなつなぎ)様を通じて、下関市内の「子ども食堂」へ当社の食肉加工品を寄贈しています。「子ども食堂」とは、子どもの孤食解消、食育、コミュニティの場づくりなどを目的として、子どもが一人でも利用でき、子どもに無料または低価格帯で食事を提供する、民間運営の食堂のことです。当社グループの事業領域を活かした社会貢献活動を通じ、地元企業としての社会的責任を果たしてまいります。



## 超高齢社会に対応した食事を通じ、 医療・介護に貢献します

介護食ブランド『まごころキッチン』は、やわらかさに配慮した商品からスタートし、栄養素を強化した栄養機能食品や、介護食材へと広がっています。

病院・福祉施設を中心に全国で使用され、皆さまの心と体の健康を、食事面からサポートしています。

### ○主なラインナップ

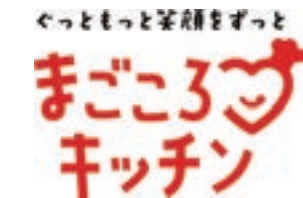
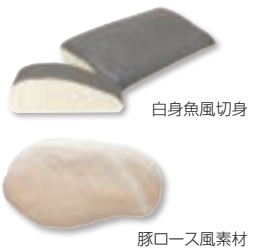
#### 高齢者ソフト食ソフミート

見た目の良い、おいしい介護食が簡単に作れる調理素材です。



#### やわらかマルシェ

「やわ」らかく誰でも「らく」に調理可能な調理食材です。



#### 行事用和菓子

行事や催事に最適な和菓子です。美しさ・季節感を大切にしました。



「まごころキッチン」のお問い合わせは ☎0120-158-608

コミュニティサイトで情報配信中 <https://www.hayashikane.co.jp/mk-club/>

## 自然から生まれた機能性素材が 美容と健康に貢献します

当社では、約20年にわたり天然由来の機能性食品素材における美容や健康への可能性について研究を進めてまいりました。

今を生きる人々、そして、未来を迎える社会に貢献できるよう「機能性素材」の研究・開発に取り組んでいます。

### ○主なラインナップ

#### カツオエラスチン

カツオ由来の機能性素材。肌や関節などの身体のさまざまな組織の弾性維持に貢献。



#### アスコフィランHS

海藻由来の機能性素材。感染症予防や血糖値上昇抑制に貢献。



#### ヒシエキス

トウヒシ果皮由来の機能性素材。老化につながる糖化ストレス抑制に貢献。



# 財務諸表(要約)

## 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産	13,385	13,988
固定資産	13,107	12,767
有形固定資産	8,758	8,333
無形固定資産	14	77
投資その他の資産	4,334	4,356
資産合計	26,492	26,755
<b>負債の部</b>		
流動負債	11,021	11,437
固定負債	5,703	5,386
負債合計	16,724	16,823
<b>純資産の部</b>		
株主資本	8,858	9,074
資本金	3,415	3,415
資本剰余金	6	2
利益剰余金	5,515	5,714
自己株式	△78	△58
その他の包括利益累計額	909	857
その他有価証券評価差額金	876	842
繰延ヘッジ損益	7	△0
退職給付に係る調整累計額	25	16
純資産合計	9,768	9,932
負債純資産合計	26,492	26,755

## 連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
売上高	40,389	42,544
売上原価	34,531	37,801
売上総利益	5,857	4,742
販売費及び一般管理費	5,129	4,390
営業利益	728	351
営業外収益	340	269
営業外費用	152	147
経常利益	916	473
特別利益	200	75
特別損失	51	94
税金等調整前当期純利益	1,064	453
法人税、住民税及び事業税	250	119
法人税等調整額	57	1
当期純利益	757	333
非支配株主に帰属する 当期純利益	49	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	707	333

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	683	△310
投資活動によるキャッシュ・フロー	18	△452
財務活動によるキャッシュ・フロー	△737	△615
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	△1
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△33	△1,379
現金及び現金同等物の期首残高	1,976	1,942
現金及び現金同等物の期末残高	1,942	562

## 連結株主資本等変動計算書(2022年4月1日から2023年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本				その他の包括利益累計額				純資産 合計	
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	退職給付に係る 調整累計額		その他の包括 利益累計額合計
当期首残高	3,415	6	5,515	△78	8,858	876	7	25	909	9,768
当期変動額										
剰余金の配当			△131		△131					△131
親会社株主に帰属 する当期純利益			333		333					333
自己株式の取得				△0	△0					△0
持分法の適用範囲の変動				0	0					0
自己株式の処分		△5		19	14					14
自己株式処分差損の振替		1	△1		—					—
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)						△34	△8	△9	△51	△51
当期変動額合計	—	△3	199	19	215	△34	△8	△9	△51	163
当期末残高	3,415	2	5,714	△58	9,074	842	△0	16	857	9,932

## 個別貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産	12,480	13,118
固定資産	11,645	11,136
有形固定資産	7,283	6,709
無形固定資産	10	73
投資その他の資産	4,351	4,353
資産合計	24,126	24,254
<b>負債の部</b>		
流動負債	10,809	11,458
固定負債	4,607	4,116
負債合計	15,416	15,575
<b>純資産の部</b>		
株主資本	7,864	7,869
資本金	3,415	3,415
資本剰余金	3	—
利益剰余金	4,523	4,513
自己株式	△78	△58
評価・換算差額等	844	809
その他有価証券評価差額金	837	809
繰延ヘッジ損益	7	△0
純資産合計	8,709	8,679
負債純資産合計	24,126	24,254

## 個別損益計算書

(単位:百万円)

科目	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
売上高	39,629	43,843
売上原価	35,171	39,851
売上総利益	4,458	3,992
販売費及び一般管理費	4,050	3,977
営業利益	407	15
営業外収益	251	250
営業外費用	139	164
経常利益	519	101
特別利益	422	28
特別損失	14	15
税引前当期純利益	927	115
法人税、住民税及び事業税	135	1
法人税等調整額	△9	△9
当期純利益	801	123



# 会社概要

## 会社概要

設立年月日 1941年1月15日  
 資本金 3,415,020,145円  
 本店 山口県下関市大和町二丁目4番8号  
 〒750-8608 TEL(083)266-0210

## 沿革

1941年1月 山口県合同缶詰(株)を設立  
 1947年6月 山口県缶詰(株)に社名を変更  
 1950年10月 日新缶詰(株)に社名を変更  
 1952年4月 下関飼料工場を建設  
 1955年1月 林兼産業(株)を合併し新社名を林兼産業(株)に変更  
 1959年8月 下関工場を建設  
 1962年5月 下関飼料工場を増設  
 1962年5月 株式を東京証券取引所に上場  
 1964年12月 本社社屋および研究棟を建設  
 1968年5月 下関第二工場を建設  
 1969年4月 林兼畜産(株)を設立、養鶏・養豚事業を同社へ移管  
 1970年6月 都城工場を増設  
 1976年2月 林兼冷蔵(株)を設立  
 1986年11月 林兼ポトリー(株)(現 キリシマドリームファーム(株))を設立し、林兼畜産(株)の事業を同社へ移管  
 1988年9月 林兼冷蔵(株)第二冷凍工場を建設  
 1991年7月 (有)平安海産を設立  
 1993年3月 長府工場を建設  
 1996年12月 林兼フーズ(株)を設立  
 2006年10月 都城ウエルネスミート(株)を設立  
 2009年3月 (有)桜林養鰻を子会社化  
 2020年11月 コーポレートロゴを変更  
 2021年12月 太幸物産(株)を子会社化  
 2022年4月 東京証券取引所スタンダード市場へ移行

## 本社・事業所等

本社 〒750-8608 山口県下関市大和町二丁目4番8号  
 TEL(083)266-0210  
 経営管理本部 〒750-8608 山口県下関市大和町二丁目4番8号  
 総務部 TEL(083)266-0210  
 総合企画室 TEL(083)266-0212  
 経理部 TEL(083)266-0214  
 品質保証部 TEL(083)266-0215  
 内部統制室 〒750-8608 山口県下関市大和町二丁目4番8号  
 TEL(083)267-0347  
 食品事業部 〒750-8608 山口県下関市大和町二丁目4番8号  
 TEL(083)266-0221  
 下関工場 〒750-8608 山口県下関市大和町二丁目4番8号  
 TEL(083)266-0221  
 都城工場 〒885-0021 宮崎県都城市平江町40号1番  
 TEL(0986)23-1450  
 東京支社 〒103-0004 東京都中央区東日本橋三丁目10番  
 14号 サンライズ橘2F  
 TEL(03)5640-1651  
 大阪支社 〒541-0054 大阪府大阪市中央区南本町三丁目  
 4番7号  
 第一住建御堂筋本町ビル7F  
 TEL(06)7660-2164  
 飼料事業部 〒750-8517 山口県下関市東大和町二丁目10番3号  
 TEL(083)267-9125  
 下関飼料工場 〒750-8517 山口県下関市東大和町二丁目10番3号  
 TEL(083)267-9125  
 長府工場 〒752-0927 山口県下関市長府扇町13番33号  
 TEL(083)248-5423  
 アクアメディカルラボ 〒759-6316 山口県下関市豊浦町室津下字東  
 768番地-1号  
 TEL(083)774-4061

## 役員一覧

2023年6月26日現在

取締役社長 (代表取締役) 中部 哲二  
 専務取締役 経営管理本部長 三代 健造  
 取締役 飼料事業部長 高田 啓吾  
 取締役 食品事業部長 平野 斉  
 取締役 (非常勤) 安部 克彦  
 取締役 (非常勤) 鈴田 修士  
 取締役 (非常勤) Peter John Taylor  
 監査等委員 (社外・非常勤) 岩村 修二  
 監査等委員 (社外・非常勤) 山尾 哲之  
 監査等委員 (社外・非常勤) 三田村 知尋  
 監査等委員 (社外・非常勤) 中嶋 一貴

## 株式の状況

2023年3月31日現在

発行可能株式総数 ..... 20,000,000株  
 発行済株式の総数 ..... 8,910,000株  
 単元株式数 ..... 100株  
 株主数 ..... 5,910名  
 (前期末比67名増)

### 大株主の状況 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
公益財団法人中部財団	761	8.62
マルハニチロ株式会社	565	6.41
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	481	5.46
株式会社恵比須商会	426	4.83
三井物産株式会社	375	4.25
株式会社松岡	360	4.08
日本生命保険相互会社	255	2.89
株式会社十八親和銀行	253	2.86
損害保険ジャパン株式会社	207	2.35
中部哲二	164	1.86

(注) 持株比率は自己株式(87,810株)を控除して計算しております。

### 所有者別分布状況

#### [株主数比率]

